

『なみだの穴』 ～六年生 33ページ<この本、読もう>～

まはら三桃 文



「泣きやもうとしても、どうしても涙が止まらなかった」

六年生なら、そんな経験がある人も多いと思います。まだ経験がない人も、きっとこれから経験することになるでしょう。

さみしくて流れる涙

うれしくて、ホッとして流れる涙

勝負に負けたくやし涙

悲しくて流れる涙

いろんな気持ちがからみあって流れる涙

お父さんと離れる、さみしさの涙

いろんな人の心の奥に隠してあった気持ちが、涙と共にあふれ出る六つの短編集です。「なみだの穴」と出会った人は、心の中に涙が満杯になった人ばかりです。そして「なみだの穴」に涙と共に殻を脱ぎ捨て、人として成長します。「なみだの穴」は、ありとあらゆるところに現れます。海、学校の砂場、体、木、空、夕食のちくわ……。いつかあなたの前にも現れるかもしれません。

また、この六つの短編集には、ある面白い仕掛けがあります。出会うことがなくても、どこかでつながっている。世の中のつながりの不思議を感じます。

● 読むのにかかる時間 一編につき約15分

● 単行本 178ページ

● 小峰書店